

人は今、なぜ「聖地」へ  
向かうのか？

～聖地巡礼から巡礼ツアーリズムへ～

2013年12月16日

北海道大学情報教育館



# 本日の講義のメニュー

- ◆ 今何故、聖地巡礼か？
  - ◆ 多様化する「聖地」 （講義の復習）
- ◆ 「巡礼ツーリズム」という観光現象
  - ◆ サンティアゴ・デ・コンポステラを例に
- ◆ 現代社会における「聖性」とは
  - ◆ 神から「関係」 （絆）へ



# 第1 セクション

- ◆ 今、何故、「聖地巡礼」か？
- ◆ 現代の「聖地巡礼」は、宗教学とツーリズム研究の出会いと交流の場となりつつある。



# 宗教の定義

- ◆ 実体的定義:

- ◆ 人間や自然を超えた超経験的、超自然的な存在に対する信念や実践。(山中 2012)

- ◆ 機能的定義 :

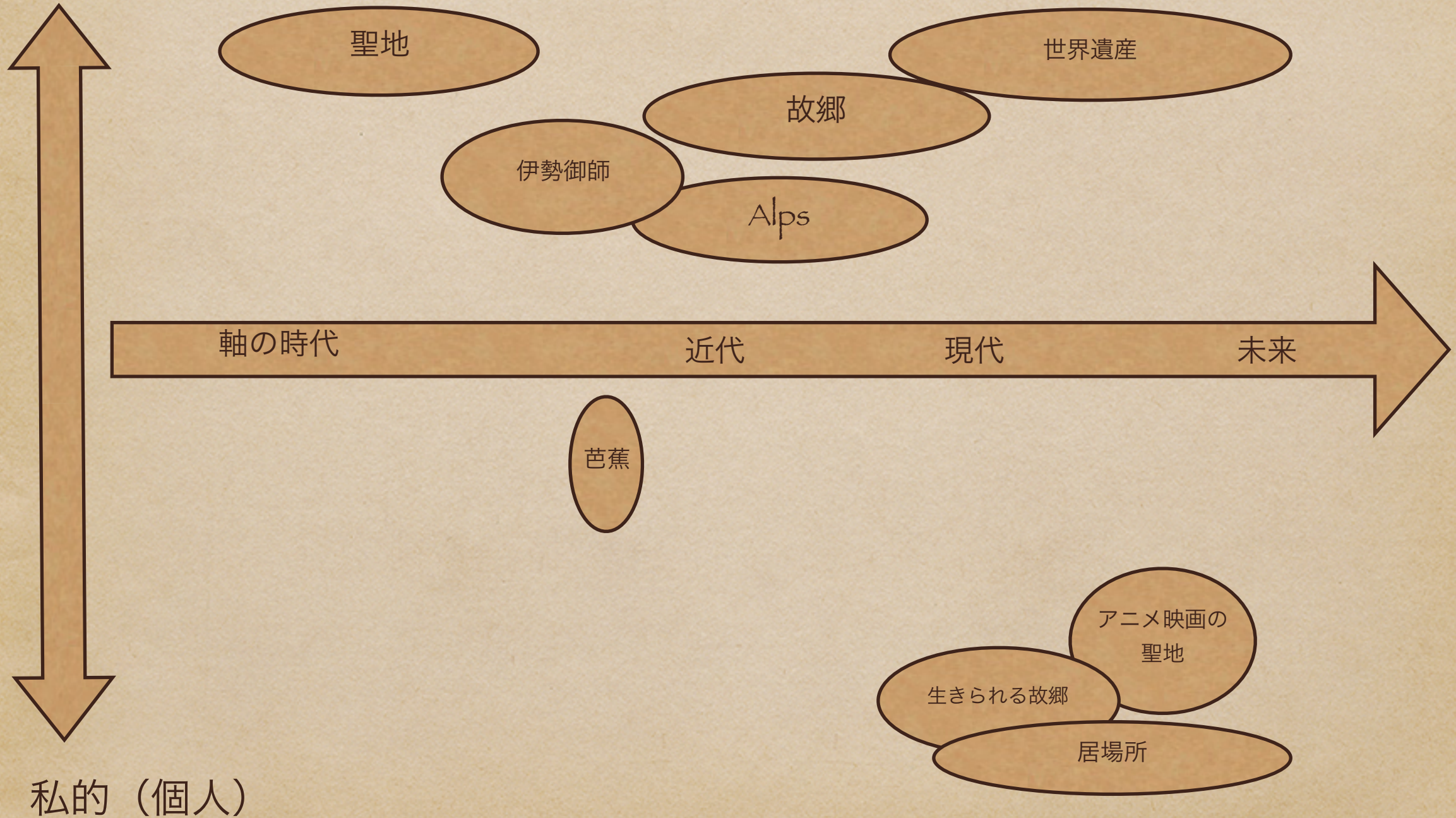
- ◆ 病や死、生きることの意味など人間の「限界状況」に深く関わる諸問題に答えてくれるもの。(山中 2012)
- ◆ 宗教とは「前提を欠いた偶発性」に馴致させる仕組みのことです。(宮台 2009)



(2)-(4)

# これまでの講義で議論された「聖地」

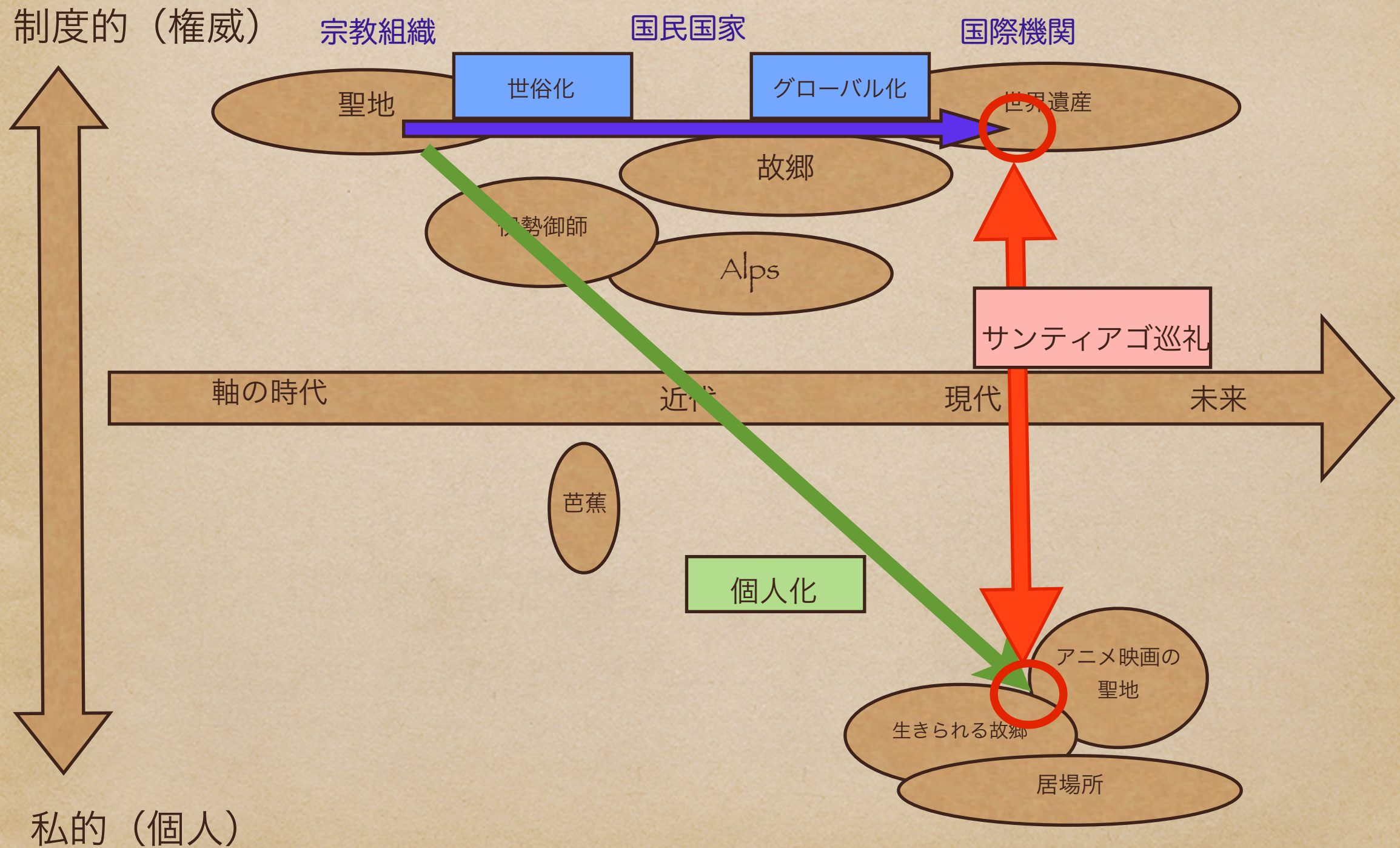
制度的 (権威)





(2)-(4)

# これまでの講義で議論された「聖地」





## 第2セクション

サンティアゴ・デ・コンポステラの聖  
地巡礼ツアーリズム



# サンティアゴ・デ・コンポステラ巡礼





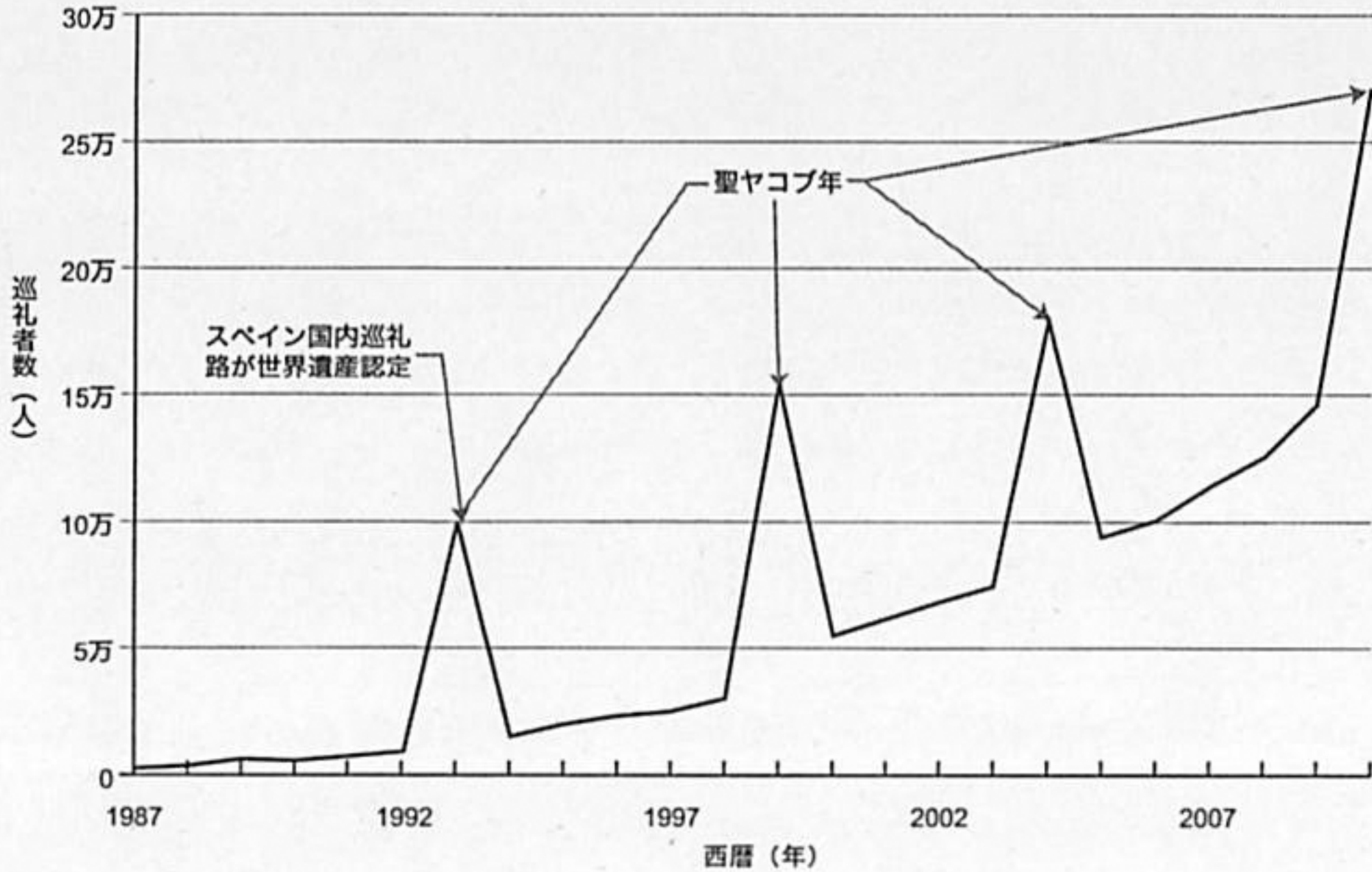
(5)



[http://commons.wikimedia.org/wiki/File%3ASantiago\\_GDFL\\_catedral\\_050318\\_38.jpg](http://commons.wikimedia.org/wiki/File%3ASantiago_GDFL_catedral_050318_38.jpg)



# 年間巡礼者数の推移



◇年間巡礼者数の推移 (1987 ~ 2010)  
(サンティアゴ巡礼事務所の発表を元に筆者が作成)

岡本 (2012)



## 第3セクション

サンティアゴ巡礼者は、  
今何をもとめて旅するのか？



# 現代のサンティアゴ巡礼者が 求めるもの

「聖地への到着」 → 「他者との出会いと交流」

[1990年代半ば以降、サンティアゴ巡礼者の]  
巡礼体験の真正性や意味は目的地であるサン  
ティアゴ・デ・コンポステラへの「到着」より  
も、**そこへ至までの「プロセス」**で生じる**他者  
との交流**の中に見いだされる傾向が強い。

(岡本 2012)



# 映画『星の旅人たち』 (The Way) (9)



2010年公開（日本は2012年）  
の米西合作映画

サンティアゴ巡礼の初日に命を落とした息子に代わり「聖地巡礼」の旅に出た父親（トム）と巡礼仲間たちとの交流を描いた映画

サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路（フランスの道）を背景に、トムと3人の見知らぬ旅人たちとの出会いと交流という〈他者との関わり〉がテーマ



# 映画『星の旅人たち』 (The Way) <sup>(9)</sup>



2010年公開（日本は2012年）  
の米西合作映画

サンティアゴ巡礼の初日に命を落とした息子に代わり「聖地巡礼」の旅に出た父親（トム）と巡礼仲間たちとの交流を描いた映画

サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路（フランスの道）を背景に、トムと3人の見知らぬ旅人たちとの出会いと交流という〈他者との関わり〉がテーマ



## トムのサンティアゴ巡礼の いくつかの重要なポイント

- ◆ 息子の遺灰を運ぶ「追悼」の旅
- ◆ 宗教的な巡礼ではなく個人的な旅
- ◆ 巡礼仲間との「出会いと交流」が巡礼行動をその都度動機づけている
- ◆ 巡礼路での「他者との出会い・交流」の体験が自己変容をもたらす



# 「他者との出会い」の場としての サンティアゴ巡礼路

- ◆ 「現代」のサンティアゴ巡礼に見られる二つの「他者関係」について（岡本 2012）
- ◆ ホスト(オスピタレロ)とゲスト(巡礼者)の<共犯関係>
- ◆ ゲストとゲスト(巡礼者同士)の関係



# 現代のサンティアゴ巡礼者の特徴

a. 「特別な自分」探し：神聖なのはサンティアゴという聖地そのものではなく、そこへの道程を通じて「聖化された自己」なのである

b. スピリチュアリティを通じた見知らぬ他者との連帯：世界のどこかに自分と同じような新しい霊性を抱く人がいるという想い

c. 趣味を通じた匿名の他者との交信：サンティアゴ巡礼者のための同好会やサークルが世界中に無数に存在し、インターネットでの情報交換が世界規模で行われている

- ◆ ☆ これらを背景に、聖ヤコブの求心性が後退し、歩くプロセスそのものが極めて重視されている
- ◆ → 「歩く」という行為の裏で欲望されているものは何か？



## 「他者との出会い」の場としてのサンティアゴ巡礼路

- a. サンティアゴ巡礼路では、距離も踏破するのに費やす時間も例外的に長い(約 800km を一日 20~30km で 1 ヶ月程歩く)
- b. 巡礼路では、生きることが「根本まで切り詰められる」不便で危険で過酷な巡礼生活を余儀なくされる
- ...
- c. 自分の「身体的・精神的苦難は他の巡礼者にも共有されている」はず、という「他者とのつながり」の感覚
- d. 道中であつた見知らぬ他者との協働を通じての信頼の醸成
- e. 「巡礼路に眠る死者を自らでもありえたと思わせる」偶有性の感覚



(15)-(17)

<弱い信仰者>としてのサンティアゴ巡礼者

～<強い信仰者>から<弱い信仰者>へ～

<強い信仰者>

超越的に恵与される宗教原理の遵守する

<弱い信仰者>

他者との継続的な相互作用の中で巡礼体験の意味を再構築する

☆<弱い信仰者>としての巡礼体験の意義：

自分は「他者(死者を含む)」との関係の網に埋め込まれた存在である  
ことを体感することで、自己を他者へ向かって開く構えが備わる

→共同性や親密性の新たな構築の試み

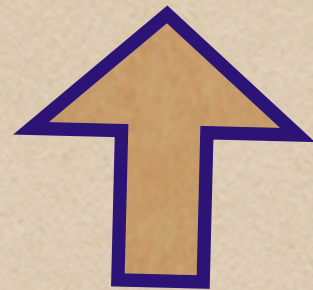


# 「中心」 (神) から「他者」へ

- ◆ Erick Cohen(1992a)
  - ◆ 巡礼 (pilgrimage) は「中心」 (the sacred center) へ向かう動き
  - ◆ 旅 (tourism) は「他者」 (the Other) へと向かう動き



聖地巡礼→巡礼ツアーリズム



神→他者／関係



## 第4セクション

今、何故「関係」（絆）が希求  
されるのか？



# 宗教とは？

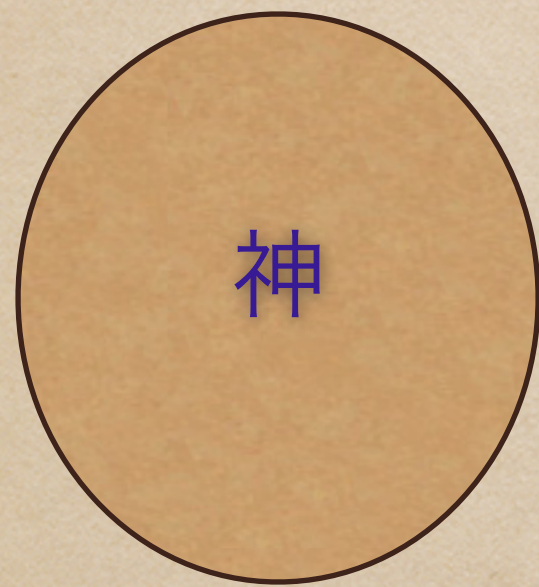
- ・病や死、生きることの意味など人間の「限界状況」に深く関わる諸問題に答えてくれるもの。(山中 2012)
- ・宗教とは「前提を欠いた偶発性」に馴致させる仕組みのことです。(宮台 2009)

## 前近代 (宗教の時代)

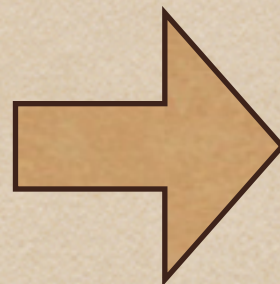
超越なるもの (神) を中心とした信仰と儀礼



世界のリアリティ（生の実感）を  
感じるためのよすが



前近代

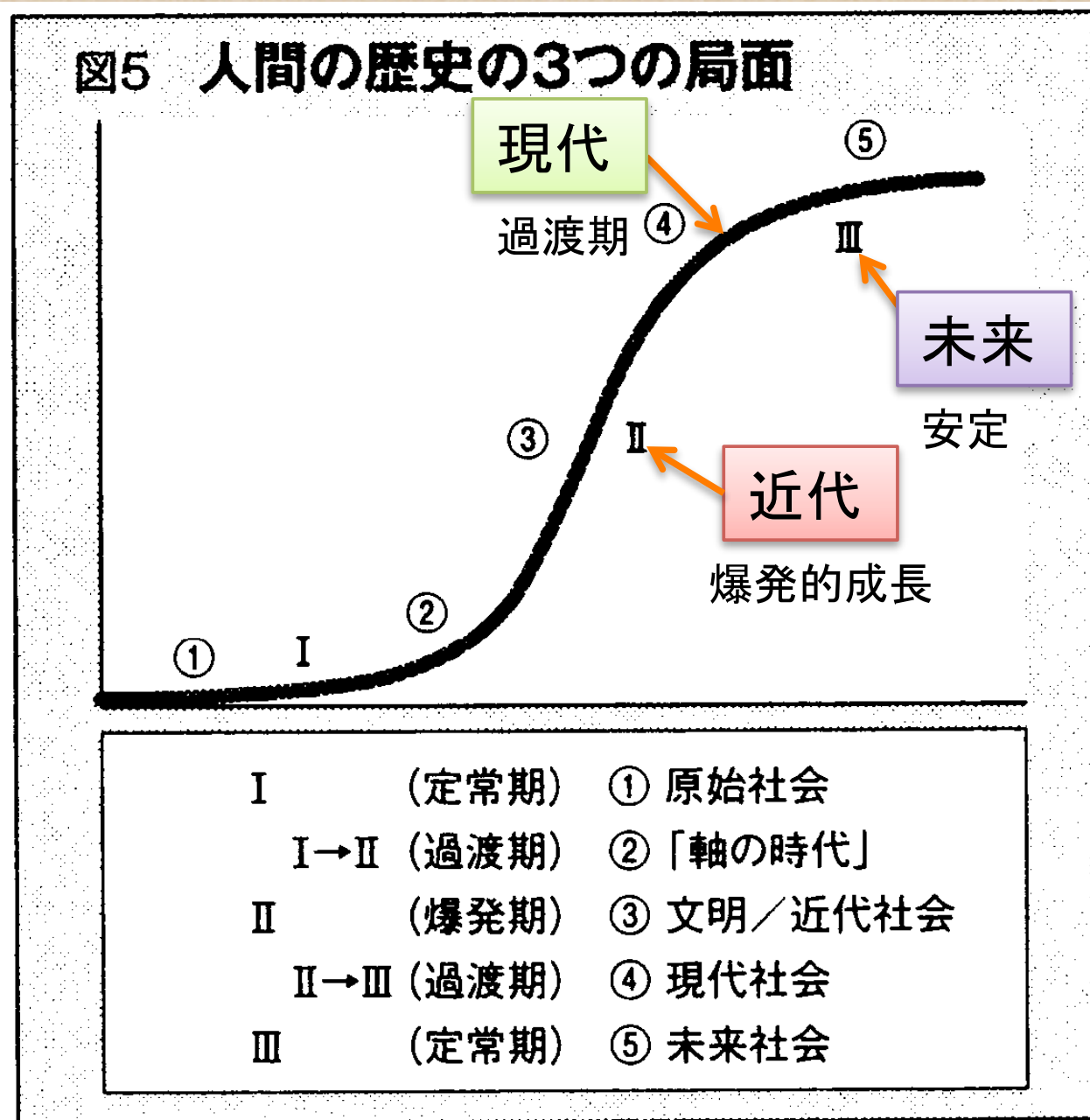


現代



# 現代とはどのような時代か？

近代社会から未来社会への移行期



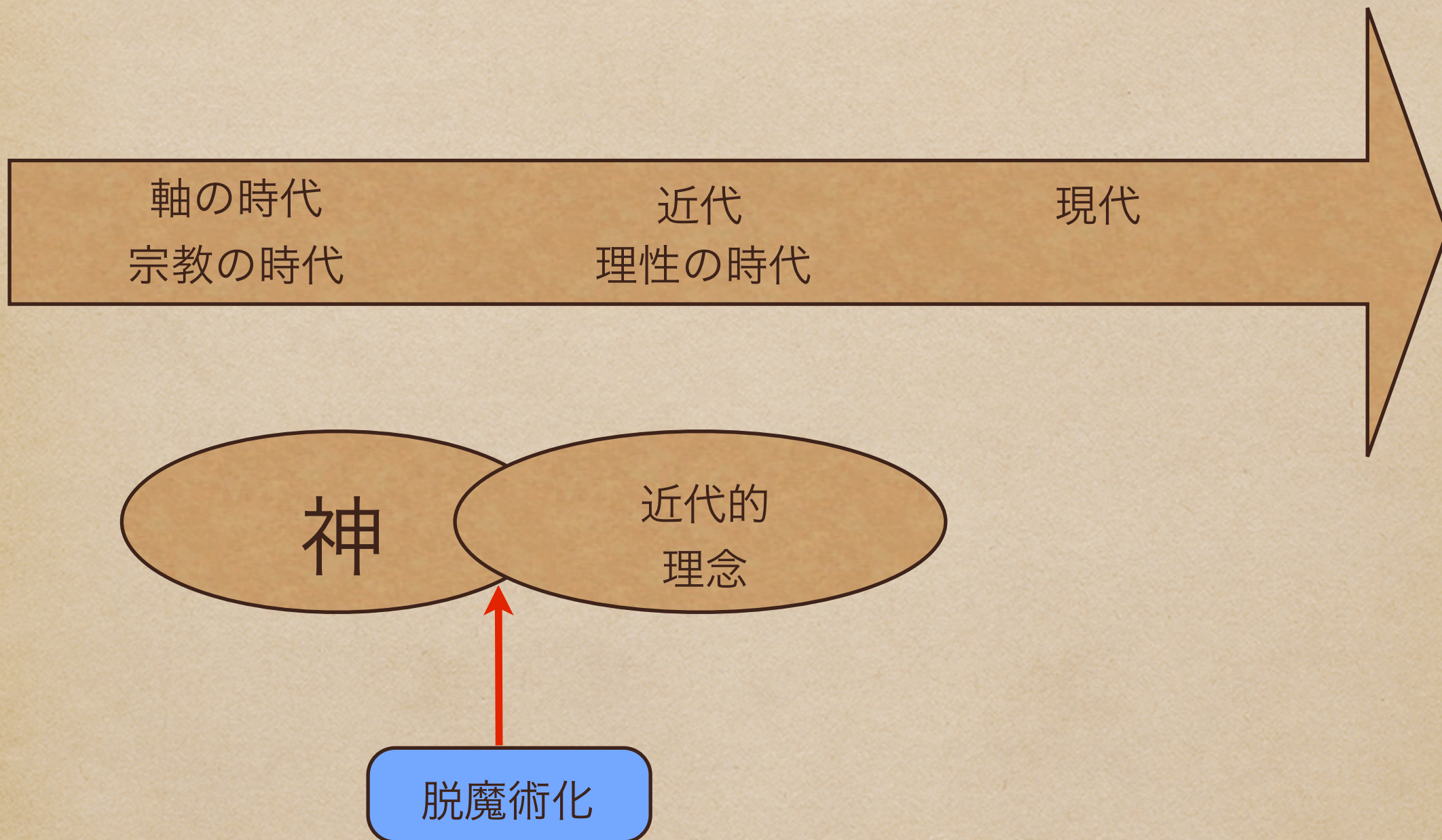


# 「超越なるもの」の変遷



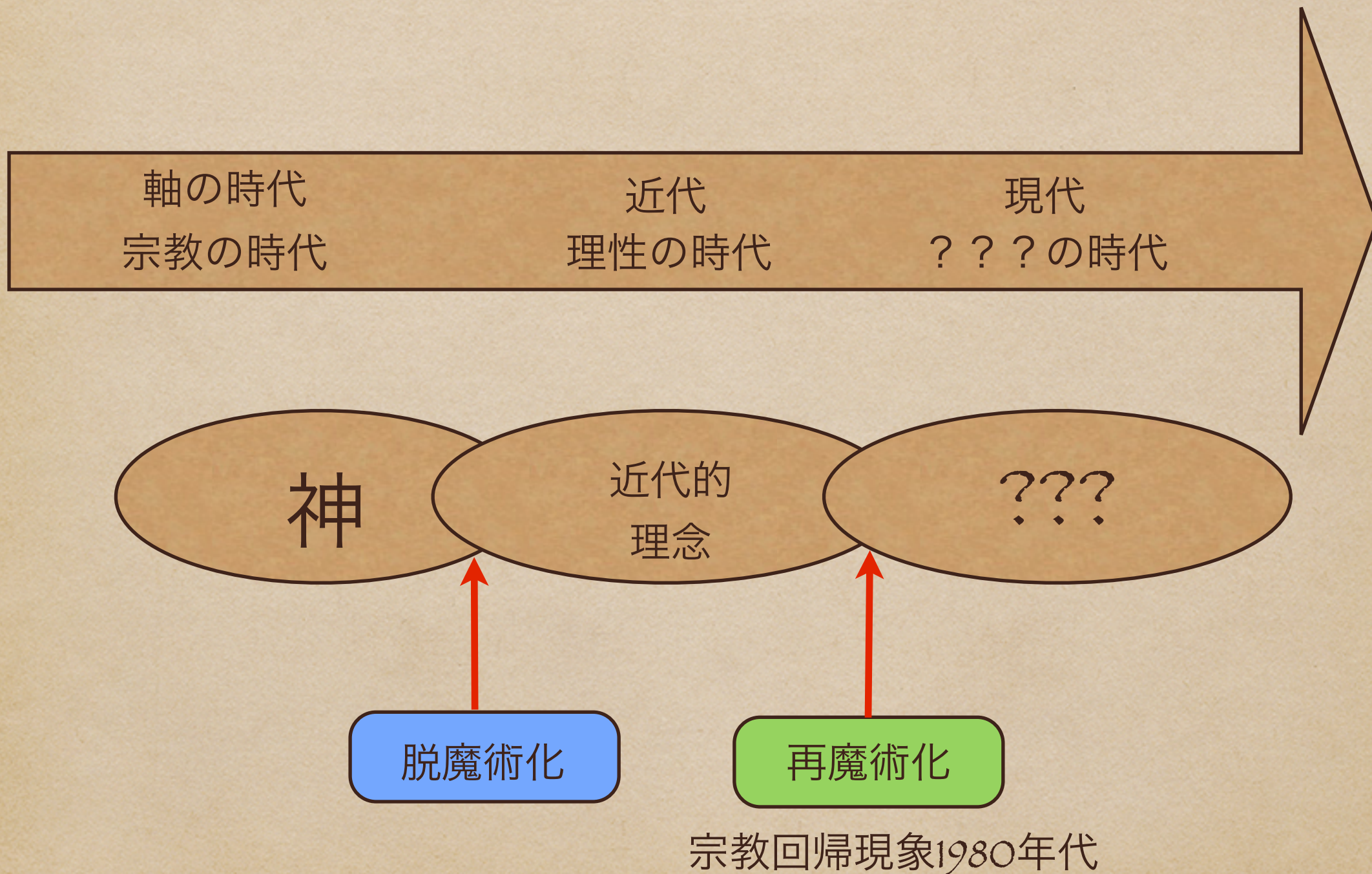


# 「超越なるもの」の変遷





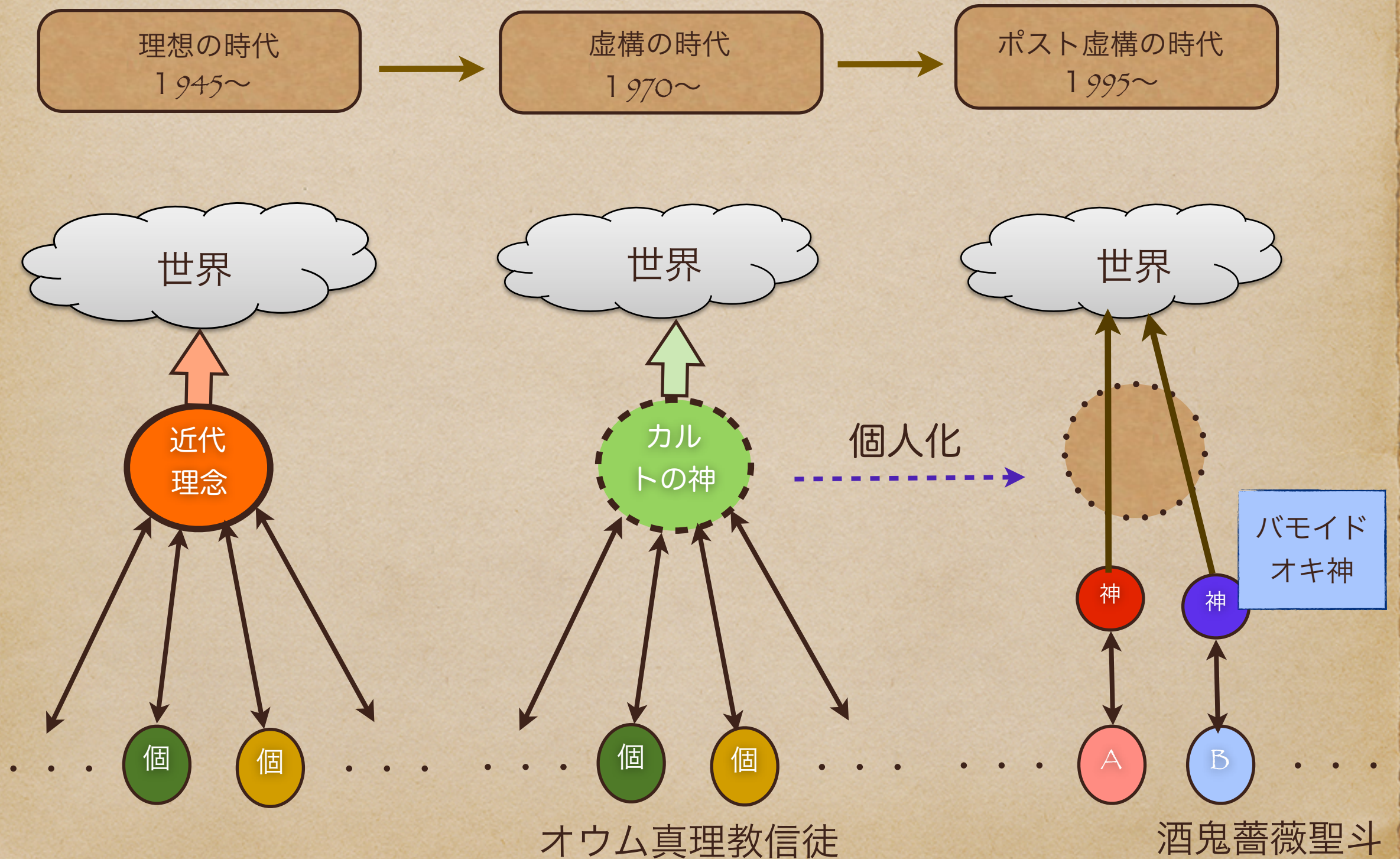
# 「超越なるもの」の変遷





# 近代から現代への「超越なるもの」（「神」）の変遷

～戦後日本社会を例に～





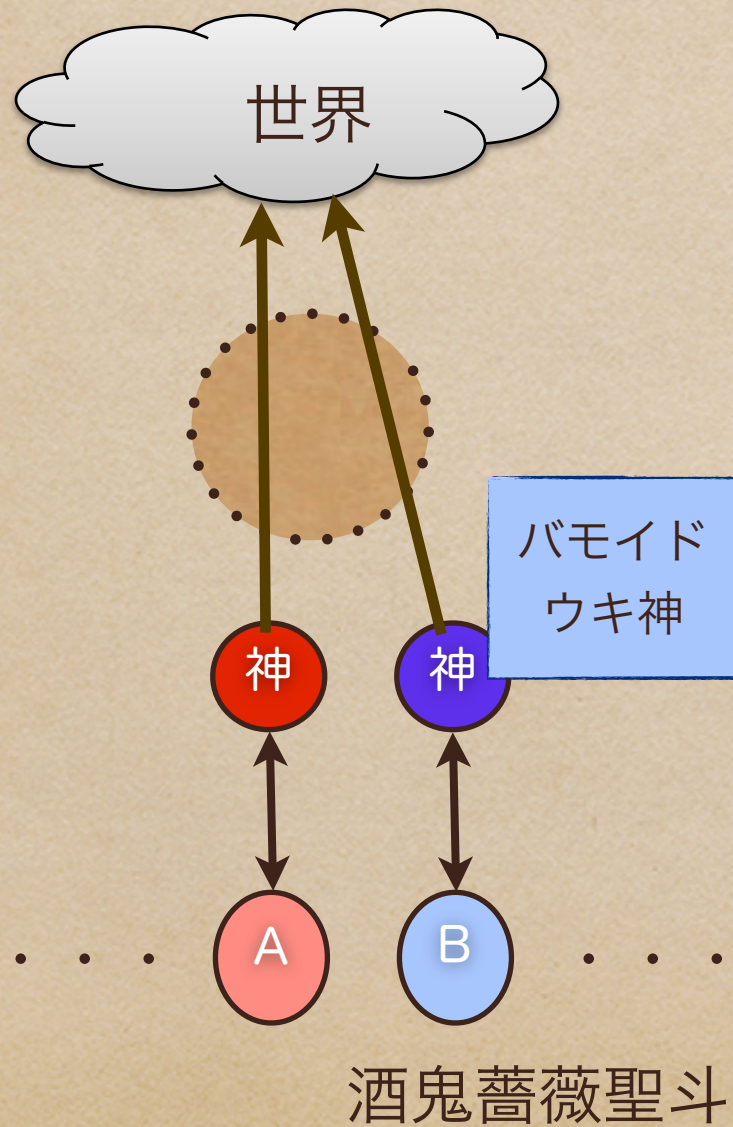
# 近代から現代への「超越なるもの」(「神」)の変遷

～戦後日本社会を例に～

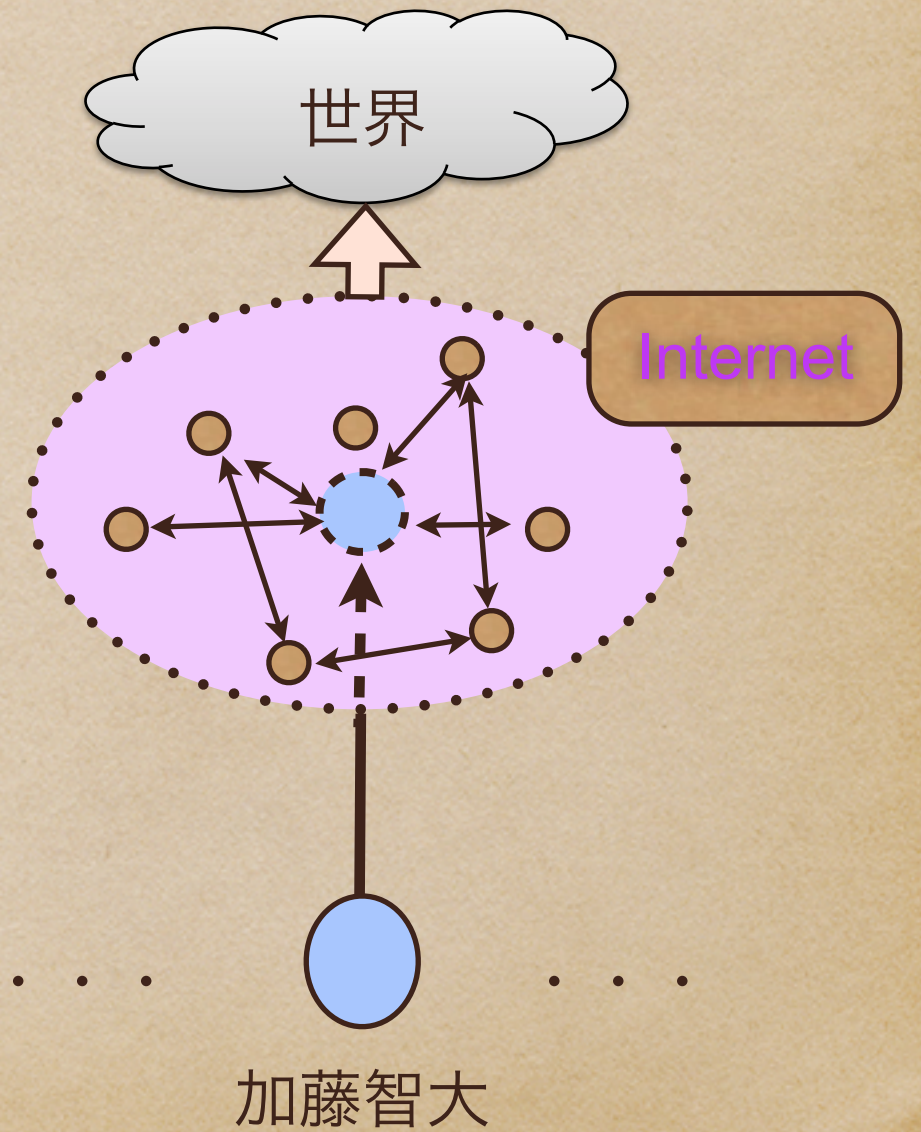
1998



2008

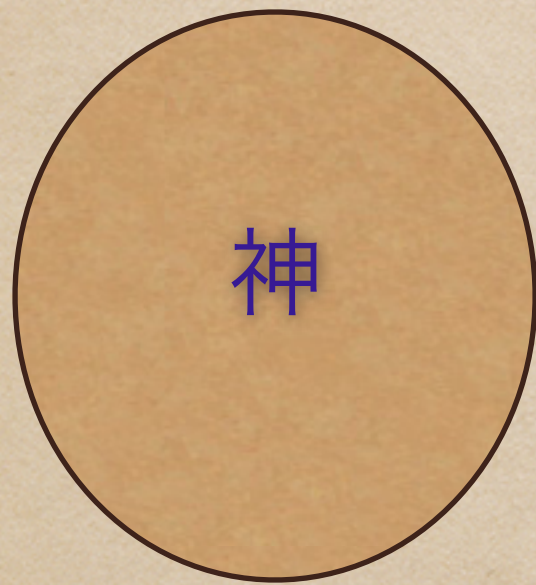


神から関係へ  
----->

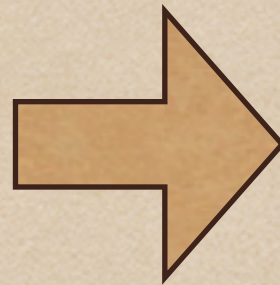




世界のリアリティ（生の実感）を  
感じるためのよすが



前近代



現代



「他者／関係」は「神」を  
代位できるのか？



## 「他者／関係」の前景化

- a. 人間関係の嗜癖 (共依存) (シェフ 1993)
- b. フルタイム・インティメット・コミュニティ
- c. 繋がりの社会性 (北田 2005)
- d. 「まなざしの地獄」から「まなざしの不在の地獄」へ (見田 2008)



# 「他者／関係」への（過剰な）期待

- a. 東日本大震災後の「絆」の大合唱
- b. ソーシャル・メディアへの期待
- c. 「シェア」文化の広がり

→ 上滑りする他者関係



# 「他者／関係」問題を考えるヒント

- a. 「感情的記憶の奇蹟」 (真木 2003)
- b. 身体の「間身体性」 (村田 2007、鷺田 1998)
- c. 「サンティアゴ巡礼ツアーリズム」から学ぶ
  - ・ 他者／環境と強く結びついた体験
  - ・ 身体を媒介した交流
  - ・ 他者とのほどよい距離感



# <弱い信仰者>としてのサンティアゴ巡礼者

～<強い信仰者>から<弱い信仰者>へ～

## <強い信仰者>

超越的に恵与される宗教原理の遵守する

## <弱い信仰者>

他者との継続的な相互作用の中で巡礼体験の意味を再構築する

## ☆<弱い信仰者>としての巡礼体験の意義：

自分は「他者(死者を含む)」との関係の網に埋め込まれた存在である  
ことを体感することで、自己を他者へ向かって開く構えが備わる

→共同性や親密性の新たな構築の試み